

●プロフィール

GONENGO LLC (GONENGO合同会社)

2017年12月1日設立。テックエンジニア・プランナーの専門家集団で、先端技術を活用したアプリ開発や新規事業支援を軸に、地方コミュニティの活性化と醸成を行う。

大阪市北区本庄東1丁目18番8号

GONENGO LLC(<https://www.gonengo.com/>)

【研究員からの一言】

会員の多くを占めるIT系エンジニアにとって、仕事を確保する上で新しい技術を常にキャッチアップすることが不可欠となる。そのためには、face-to-face(=アナログ)のゆるいつながりで、情報共有することが大切なのだという。コミュニティスペース「5.6」では、心身の健康・コミュニティ・論理・感性を基本コンセプトにしており、昨今急成長しているシェアオフィスやコワーキングスペースとは似て非なる存在である。

5.6には「消極的な選択が心身の健康につながる」しゅみがある。多忙でコンビニに行くのが億劫な会員に、作り置きした野菜スープを自由に飲んでもらうサービスが一例である。深夜まで夕食を取らず、カップ麺やスナック菓子で過ごすエンジニアを目の当たりにし、スキルや志の高い人が健康な心身でやりたいことを成し遂げられるような環境を整えた。こうした運営設計は、働き方改革で注目されている健康経営への第一歩であり、会員への思いやりが感じられる。

エンジニア以外の会員によれば、エンジニアは共通言語の下では論理的だが、感性が欠如している、つまり「ユーザー視点に立っていない」ことがしばしばあるらしい。同社は、知人のネットワークを活用してアーティストの作品を5.6に出展してもらい、エンジニア(論理)とアーティスト(感性)が交わる場づくりに取り組んだ。これは、共同運営者の中塚氏が語る「早く行きたいなら一人で行け、遠くへ行きたいならみんなで行け」というアフリカの諺を具現化している。色んな価値観を持った人の知恵を借りてものづくりに取り組む方が、より大きく豊かな結果が得られる。こうした思想が通底するたくさんのゆるいコミュニティは、同社にとっての肝である。

同社の活動を概観したあと、「際」という言葉が頭に浮かんだ。「二つの物が接する所」「出会う」「接して交わる」などを意味する「際」は、まさに同社のありようを言い表している。

(大阪産業経済リサーチセンター 主任研究員・山本敏也)

編集後記

今回取材させていただいたGONENGOはITやDXの分野における最先端で事業活動を行いながら、一方で地域に根付いたリアルなコミュニティの醸成にも取り組み、温かみのある人との関わりを大切にされています。

GONENGOがたくさんの人に寄り添いながら共創する「5年後」の世界がどのようなものになるのか、ぜひみなさんもご期待ください。(広域産業振興局・窪田)

関西広域連合 広域産業振興局NEWS

メルマガ会員募集中!

ぜひ、ご登録ください(登録無料)

kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp関西広域連合主催 企業向けセミナー配信中!
(令和6年3月まで)「DX 1day Study ~presented by 関西広域連合~」
人材セミナー <https://x.gd/kouikikansai>「産業人材セミナー ~presented by 関西広域連合~」
<https://x.gd/tXfF1>

ぜひお気軽にご視聴ください。



発行元

関西広域連合 広域産業振興局
〒559-8555

大阪市住之江区南港北 1-14-16

大阪府商工労働部 商工労働総務課内

TEL06-6614-0950 FAX06-6210-9481

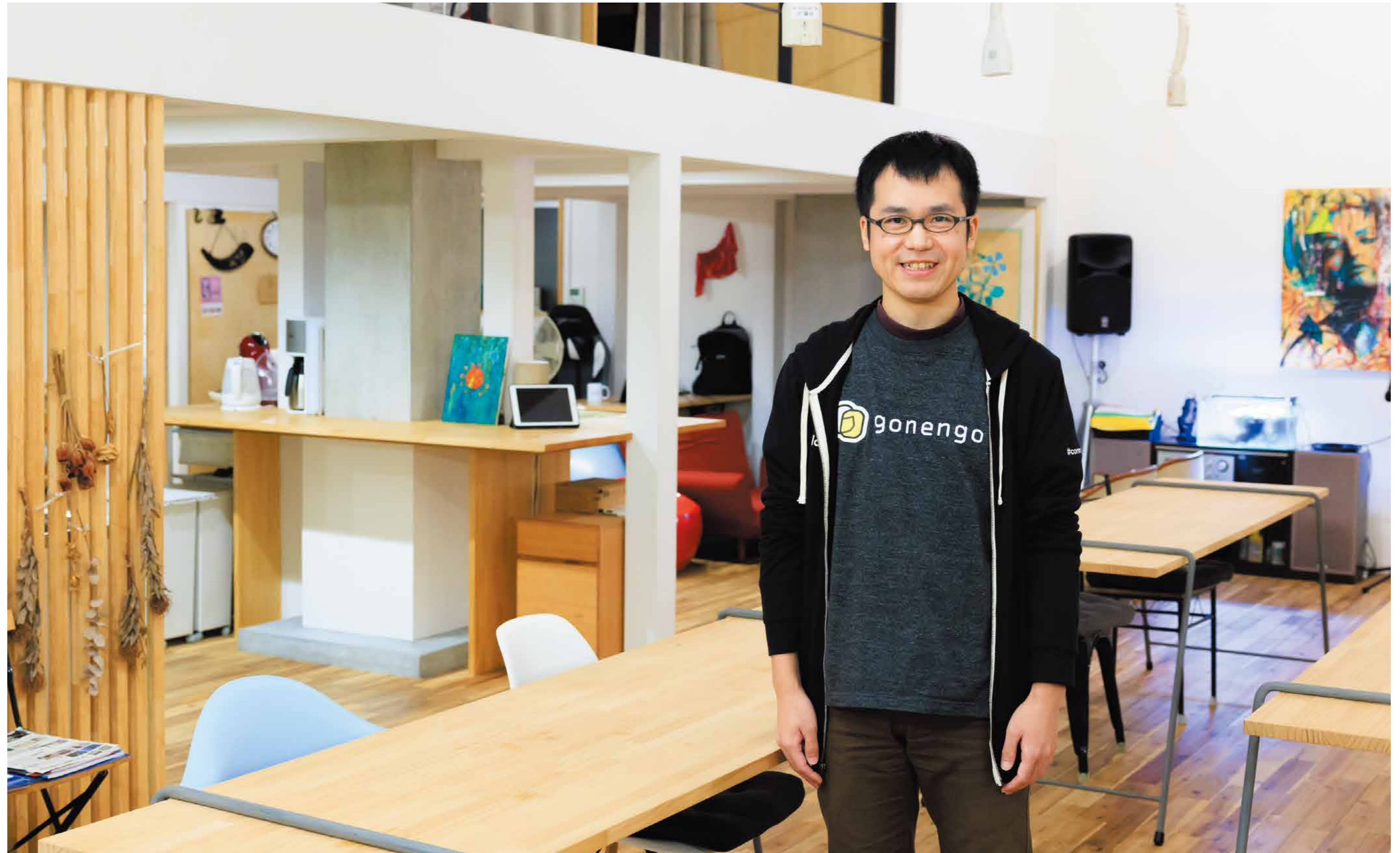
E-mail sangyo@kouiki-kansai.jpURL <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/index.html>

さあ、関西の時代へ

関西広域連合
 UNION OF KANSAI GOVERNMENTS

from **NOW ON** KANSAI

ひとをみつける、ひととつながる
 関西広域連合のビジネス情報紙



「それぞれの5年後」をつくるためにコミュニティで
 知識や経験を共有し新しいものづくりに生かす

~GONENGO LLC



「それぞれの5年後」をつくるために コミュニティで知識や経験を共有し 新しいものづくりに生かす

～GONENGO LLC

ITの活用は、多くの産業にとって不可欠であり、その進歩は加速度的だ。それだけに開発に携わるエンジニアには、次の仕事のステップになる新しい知見や情報を得ることが必要不可欠である。しかしながら実態は、情報収集できる場そのものが不足しており、特にフリーランスや小規模な企業に所属して活動するエンジニアにとって、重要な課題となっている。

そうしたIT業界で「5.6(ゴーテンロク)」という、コミュニティづくりを重視したいいわゆるシェアオフィスを運営しているのがGONENGO LLCだ。同社は本来、システム開発とソリューションの提案・実装支援等を主に行っているが、その他にもコワーキングスペースにおけるイベントの企画運営のほか、学校等におけるIT関連の教育支援、スタート



▲GONENGOのマスコット「ピータ」「ピーリヤン」のグッズ

アップのサポートなど、多岐にわたる事業を展開している。またその一方で、プロ麻雀リーグ「Mリーグ」で戦うチーム「U-NEXT Pirates」のオフィシャルスポンサーを務めて、同社マスコットとチームがコラボレーションすることなどによる独自の広報戦略も展開しているが、それらの中でもとりわけユニークで目新しい取組が、冒頭に触れたコミュニティの運営とその事業化だ。

有志ではじまったコミュニティ 「大阪駆動開発」と リアルなコミュニティスペース 「Kiiya Hommachi」

GONENGO LLCのCEOである鈴木氏が、創業前に、後に同社の共同運営者として加わることになる山地氏と共に立ち上げたのが「大阪駆動開発」というコミュニティである。有志で作られたIT系のコミュニティで、現在のメンバーは1,600人以上にのぼるが、ARやVRなど話題のテーマをはじめ、テーマごとに少人数での情報共有や勉強会などが手軽に体験できるよう、ゆるく繋がるどころが特徴だ。

参加者の目的や興味が共有できるよ

うにテーマを明確にし、オンラインとリアルハイブリッドでこれまでに1000本以上のイベントを開催してきた。また、管理者のいない分散型コミュニティの考え方も軸になっており、鈴木氏や立ち上げメンバーが直接介在しなくても、それぞれテーマを持って自律的に活動する。

さらに、「Kiiya Hommachi」という施設の運営を3名の有志で開始した。この施設は現在のコミュニティスペース「5.6」の前身と言えるものであり、エンジニアを中心に、社会人、学生、フリーランスなどがリアルで集まることができ、それぞれが抱える課題の解決につながる場として、参加者間の紹介による新しいつながりもできていた。しかしコロナ禍でイベントのリアル開催ができなくなり「Kiiya Hommachi」は閉鎖に追い込まれることになる。だが、利用していた参加者から、リアルなコミュニティの場は重要だとして、継続を求める声が多数寄せられたのである。そこで、いわゆるクラウドファンディングに似た形で利用者に出資を募り、新たにGONENGO LLCが事業として運営する「5.6」の誕生に至った。

“ゆるい繋がり”で 形成される「5.6」

現在「5.6」は会員制で、月額制の会費により運営されている。

会員の7割がIT系エンジニアで、その他は一般企業やスタートアップを支援している会社、弁護士などの法人、個人が集う。会員同士が安心して気軽に繋がれる場づくりを大切にしていることから、入会には既存会員の紹介が必須である。また、入会時に会員専用SNSで自己紹介をしたり、イベントを開催したりすることで、全員が顔見知りになる工夫もされている。

実際、会員から技術的な相談があった際には、その内容に詳しい別の会員に繋ぐなど、直接面識はなくても知り合いの知り合いというゆるい関係の中で助け合いが生まれる。

リアルな場所に集うことで、聞いてほしいだけの悩みなどを気軽な会話の中で発散してリフレッシュし、また自分の仕事に集中できるというメリットも

ある。

集中して作業をすることもできるし、仕事帰りにふらっと寄って仲間と歓談することもできる。全員が顔見知りで、そこに行くといつも誰かがいる、そういうサークルのような場が形成されている。

独自の取組で よりよいものづくり環境を提供

「5.6」では、他のコミュニティやシェアオフィスにはあまり見られない、独自の取組もなされている。

まず、会員の健康促進の観点からは、月1回の足つぼマッサージや、いつでも気軽に飲める手作り野菜スープが提供されている。この背景には、かつて仲間が大病をしたことがあり、運営メンバーの中塚氏は「志が高く、スキルがあっても、体を壊すと何もできなくなります。大事な仲間が心身ともに折れる姿を見て、本当に辛くなりました。そして、コミュニティを利用している他のエンジニアも同様、食生活に乱れがあり、いつ体を壊してもおかしくない予備軍が大勢いることに気づきました。最低限心身の健康を保てるサポートをして、みんながやりたいことをやりきれるような環境を整えたい」と自身の思いに力を込める。

また、「5.6」では月替わりでアートの展示も行われている。毎月、若手アーティストの絵画や制作物がスペースのあらゆるところに展示され、そのアーティストとエンジニアたちが交流する機会も設けられている。これは、ロジックに強いエンジニアと感性に長けているアーティストが出会うことで、ものづくりへの良い影響が出ることを期待して企画されている。作品を披露する機会に恵まれないアーティスト側にも好評で、



▲活動内容を説明する鈴木氏(左)と中塚氏(右)



▲アーティストの作品が展示されたコミュニティスペース「5.6」の室内の様子

近隣の飲食店にも協力を仰いで作品を展示してもらったりなど、地域にも広がりを見せ、新たなつながりを生んでいる。

地方でコミュニティ醸成の きっかけをつくる

鈴木氏は、この新たなつながりを生む取組を「5.6」での活動にとどめず、広く地方でも展開させようと試みている。

その一環として、GONENGO LLCは和歌山県白浜町でコミュニティづくりをテーマに、あるプロジェクトに取り組んだ。それは、オーエス株式会社(阪急阪神東宝グループ)が維持管理を行うリゾートサテライトオフィスビルANCHOR(アンカー)の活性化だ。ANCHORは、観光名所の白良浜から徒歩10分に位置し、ワーケーションや非日常的な体験で心や体を癒すリトリートに適したロケーションにある。

GONENGO LLCはこの施設で2回のリトリートプログラムを実施している。いずれもテーマはアートで、地元とANCHORの利用者、他のビジネスパーソンの交流を目的とする。1回目は、館内に「即席美術館」をつくり、地元の工芸家による「陶芸体験プログラム」を実施。2回目は同県田辺市にある「龍神



▲ANCHORでの「陶芸体験プログラム」の様子

村」とのコラボ企画で、「アトリエ龍神の家」からアーティストを招き、古紙でアートを作る「新聞造形体験」や、その新聞で作った動物を館内に潜ませて、まるで野生動物を探して触れ合うような遭遇体験ができる一泊二日の宿泊イベントを実施した。

GONENGO LLCが実現したいのは、イベントを通じてその参加者に、交流の場と、そこから広がる人のつながりの大切さに気付いてもらうこと、そして、その気付きが地域に根付いたコミュニティ醸成につながることである。将来的には、そのコミュニティの活動が自律的に継続していくことで、地域に新しい仕事を生み出し、多くの人が働きたい場所で、やりたい仕事が見つけれられる状態となることを理想としている。

コミュニティ醸成の全国展開と OBによる会員支援

GONENGO LLCの今後について、鈴木氏は「身の丈にあった活動を続けていきたい」と前置きをしながらも、ANCHORで経験したコミュニティ醸成事業については、全国各地に取組を広げたいと意気込みを語った。

さらに「5.6」での活動に関しては、会員への支援をより充実させたいという思いから、OBが次の会員を育成するために支援する仕組みを考えているという。「この場所があったから頑張れたというかつての会員に資金面で協力してもらい、新しい会員の活動を今まで以上に全力で支援する。そのためにまずは、ここで数多くの成功モデルを生み出したい」と笑顔で目を輝かせた。